

平成 29 年度 第 2 回 松戸市子ども・子育て会議 会議録（要旨）

1. 日時	平成 29 年 10 月 30 日（月） 18 時 30 分～20 時 30 分
2. 場所	松戸市役所 新館 7 階 大会議室
3. 出席者	<p>&lt;委員&gt;（50 音順）21 名          阿部委員、天田委員、石田委員、荻野委員、粕谷委員、加藤委員、神谷委員、小松委員、坂野委員、佐藤委員、鈴木委員、知久委員、寺田委員、奈賀委員、箱田委員、百田委員、平井委員、福田委員、藤原委員、松崎委員、松村委員</p> <p>&lt;松戸市&gt;          子ども部長、子ども部審議監、子育て支援課、幼児保育課、子ども家庭相談課、子どもわかもの課、障害福祉課、教育企画課、指導課、事務局（子ども政策課）</p>
4. 傍聴者	3 名
5. 次第	<p>1 委嘱状交付式</p> <p>2 子ども部長あいさつ</p> <p>3 松戸市子ども・子育て会議          （1）会長・副会長 選出・あいさつ          （2）松戸市の人口状況について          （3）松戸市子ども総合計画の中間年の見直しについて</p> <p>4 その他</p>

<要旨>

1 委嘱状交付式

2 子ども部長あいさつ

3 松戸市子ども・子育て会議

（1）会長・副会長 選出・あいさつ

○会長・副会長 選出

「松戸市子ども・子育て会議条例第 5 条第 1 項」の規定による委員の互選により、会長及び副会長を選出。

知久委員から、坂野委員を会長に推薦。

委員一同異議なし。

坂野会長から、阿部委員を副会長に推薦。

委員一同異議なし。

会長は坂野委員、副会長は阿部委員に決定。

○会長・副会長のあいさつ

(坂野会長)

子育てしやすく、子どもが育ちやすい街づくりのために、皆様と一緒に頑張っていきたい。

(阿部副会長)

聖徳大学は松戸市にあり、学生の支援において市から様々な形で協力をいただいている。聖徳大学の一員として、子どもの未来に関わる仕事をさせていただくことを光栄に思っており、頑張っていきたい。

○会議の成立

(事務局)

総委員数 25 名、21 名出席（4 名欠席）。

「松戸市子ども・子育て会議条例第 6 条第 2 項」の規定により、会議の成立を報告。

○会議の公開

(事務局)

「松戸市情報公開条例 32 条」の規定により、公開を原則として会議を開催したい。

○議事録の作成と公開

(事務局)

要約による議事録を作成したい。

(坂野会長)

議事録は事前に委員の了解を得た上で公開することで了承する。

○本日の傍聴の受け入れ

(事務局)

3 名の方から傍聴の申し出あり。

(坂野会長)

入室を許可する。

(2) 松戸市の人口状況について

(坂野会長)

議題 2：松戸市の人口状況について、説明をお願いしたい。

(まつど創生課)

資料 1-1「松戸市の人口状況」及び資料 1-2「松戸市人口ビジョン・松戸市総合戦略

の概要」を用いて説明。

(坂野会長)

質疑応答をお願いしたい。

(粕谷委員)

新卒保育士が市内に住む際に家賃補助をするというチラシを見たが、そのようなことも、若い人の人口確保につながると思う。

(坂野会長)

意見として受け止める。

(3) 松戸市子ども総合計画の中間年の見直しについて

(坂野会長)

議題3：松戸市子ども総合計画の中間年の見直しについて、説明をお願いしたい。

(事務局)

資料3「松戸市子ども総合計画概要」、資料4「松戸市子ども総合計画の中間年の見直しについて」、資料5「松戸市子ども総合計画の中間年の見直し」を用いて説明。

(坂野会長)

松戸市子ども総合計画の中間年の見直し素案については、前回の会議で、第2期委員に概ね了承を頂いており、今回、報告いただいた内容は、その際の意見を踏まえ、加筆・修正している。質疑応答をお願いしたい。

(天田委員)

中3、小5、2歳児の子どもがいる。2歳児は、日中具合が悪く、病後児保育を活用することが出来たなど、中3の子を育てていた時よりも子育て支援が充実していると肌で感じ、他市の人からも羨ましがられる。

先日、ボランティア交流会に参加したが、元気なお年寄りが沢山いたので、子どもの将棋相手など、子どもが年代の違う人と交流が出来るといいと感じる。

(石田委員)

天田委員の意見と同様に、松戸市には元気な高齢者が沢山いらっしゃるのので、高齢者と乳幼児を持つ母親が、子どもをちょっと預けるなどで関わりあえる機会があるといいと感じている。松戸市の人口の話の話を聴くと、出生数が減った印象を持つ。松戸市で

子どもを産みたいと思えるような状況が少なくなっているのか、それとも国を含めた全体的な傾向なのか。ママパパ学級をしていると、パパが子育てに関わりたいと思う人が増えた印象があり、先の高齢者の活用も含め、松戸市で子どもを産みたいと思えるような形が出来たらいいと感じる。

(小松委員)

人口の話の中で、働き盛りの男性に未婚者が多いという話があったが、出会いの場が少なく、それが出生数の減少に関係しているのではないかと感じる。男性や女性に限らず、出会いの場を作っていかなければと思う。

(佐藤委員)

現在、共働きの核家族家庭で、小1、年中を育てている。ほっと一む東松戸では、毎年外部講師を招き父親学級を開催している。10月下旬に5回目を開催したが、父親自身がQRコードから直接申し込めるなど申込方法を改善することで、初めて定員25名を超える父親が参加した。5人1組で話をしたが、父親が家庭に関わりたいという思いから、挙がってくる話の質も高かった。東松戸地域は、核家族が多く、父親が家庭にかかわりたいという思いがある一方、夫婦ともにお互い大変な思いをしていることも、今回の父親学級の参加率の上昇に起因し、またそうした中で、3人目をつくろうという思いに至らない人が多いのではないかと感じる。他市の方の声を聴くと、松戸市の子育て支援は充実していると言われる。「子育てしやすいまち」をPRすることで子育て世代も流入し、また子育てしやすい環境が整うことで、子どもを欲しいと思う家庭が増えてくると思う。PRを協力していきたいと思う。

(藤原委員)

保護者と毎日向き合っていると、安心して出産・育児が出来る街というビジョンが実現出来ているのかと感じることがある。子どもは元気な時ばかりではない。仕事を持つ親に対して、子どもが病気になった時に、どのように支えてあげられるかが大事なので、預けられる受け皿を考えていく必要がある。

(百田委員)

松戸市子ども総合計画の中間年の見直しについては良くまとまっていると思う。

(箱田委員)

社会的養護について、国から新たな養育ビジョンが示された。子どもが家族と共に暮らせるように推進するため、実家族だけでなく、里親の推進も示されている。家族と暮らすことや家族を形成していくことが困難な家庭も実際にはある。そのようなところにも焦点を当てながら議論をしていきたいと思う。

(坂野会長)

その件は、子どもの未来応援会議でも話題に出ると思うので、そちらも含めて議論をしていきたい。

(奈賀委員)

松戸市子ども総合計画に記載されていることが全部実現出来たら素晴らしいと思う。また小中学生のPTAとしては、市立高校ならではの教育が充実していくと、子どもは進路の選択肢が広がり、親としても子どもを遠くに通わすリスクが減り、いいと感じる。

(加藤委員)

産後ケアを実施し始めて1年が経過したが、本当に支援が必要な人に、しっかりと情報が届いていないという印象がある。また養育支援訪問事業では、訪問率100%を目指すこともあり、親子すこやかセンターの機能を充実していくとあるが、完全に機能しきれていない印象を持つ。

(坂野会長)

インプリメンテーションという言葉があり、計画の内容よりも、計画を実施の際の問題であると受け止める。

松戸市子ども総合計画の中間年の見直し素案については、委員の皆様としてはよく出来ているということで、現在提示された案で進めていただくのでよろしいか。

(委員一同)

異議なし。

(坂野会長)

本日の議事は全て終了した。

#### 4 その他

##### ○各委員からの挨拶

(天田委員)

市民委員として第2期から継続し委員を担当させていただく。

(石田委員)

松戸市おやこDE広場ネットワークで代表を務めている。子育てコーディネーターをしている。

(荻野委員)

松戸市障害者団体連絡協議会の推薦で委員を担当する。子ども総合計画の中に障害児は含まれるのか。医療の進歩で助かる命もあり、障害児が増え、その中で働きたいという母親も増えている。そのあたりも今後検討の中に入れていただきたい。

(子ども部審議監)

松戸市子ども総合計画は、子どものこと全般を議論することが前提である。計画の中に、直接文言として記載されていない場合でも、市の様々な計画と密接に関係しており、ご意見は幅広く頂きたい。

(粕谷委員)

市民委員として委員を担当する。0歳児と1歳児がいる。おやこ DE 広場によく行っている。赤ちゃん教室で講師の先生から日中は活動するようにアドバイスがあるが、母親達は天候のこともあり、外で活動することに拒んでいるケースがある。おやこ DE 広場など、松戸市にはいい場所があるのに知らない母親が多く、自分からも宣伝をしていきたいと思う。

(加藤委員)

千葉県助産師会の推薦で委員を担当する。おやこ DE 広場での相談業務や、市の臨時職員として産後の家庭訪問等を実施している。

(神谷委員)

聖徳大学の推薦で委員を担当する。児童館職員を20年間務め、「国立こどもの城」という施設を設立した。これらの活動を通じ、思春期対策が専門である。

(小松委員)

松戸歯科医師会の推薦で委員を担当する。小学校で1クラス30%外国人がいるというところもあり、言葉の面などで課題があるという話を聞いた。外国人が増える中、今後そのような面でも、問題が起きると感じる。それも踏まえて子どもの成長を考えていきたい。

(佐藤委員)

市民委員として、第2期から継続し委員を担当する。第2期では、松戸市や携わっている団体の方の熱意を感じた。今期は色々な方とつながりながら、松戸市に住んでよかったと思える父親、母親、子どもを増やしていきたいと思う。

(鈴木委員)

松戸市国際交流協会の推薦で委員を担当する。外国籍市民は、2017年9月時点で15,088人、18歳未満の子どもでは、1,898人となる。外国人の子どもは、なかなか友達が出来ない、勉強が困っているなどがあり、また両親は学校から渡されるプリントの内容が理解出来ないことがある。そのような方をサポートするため、国際交流協会では、日本語教室を開催するなど、支援を進めている。また子どもたちにも異文化交流を体験して頂けるよう協力していきたい。

(知久委員)

松戸市保育園協議会で会長を務めている。働く保護者の就労支援として、松戸市保育園協議会でも、保護者の育児相談等も含め、様々な支援をしている。我が保育園は、総合保育室モデル事業で障害児を受け入れているが、希望園児が増え、本園だけでは受け入れが難しくなっている。健常児と障害児と一緒に生活出来る環境づくりが必要であると感じる。またおやこ DE 広場とコラボしながら、地域の乳幼児がいる家庭の育児支援を実施している。地区社協も含めて、地域のネットワークを広げながら支援を進めていく必要があると感じる。最近台風などの災害が多いが、福祉避難所について、保育園や幼稚園が乳幼児の避難にどう対応出来るか、市と一緒に考えていきたい。

(寺田委員)

松戸市私立幼稚園連合会の推薦で委員を担当する。学校法人新松戸幼稚園で園長も務めている。子どものことを真剣に考えて支援している人が沢山いることを改めて実感した。松戸市には、公立幼稚園がなく、私立幼稚園がそれぞれ建学の精神に基づいて特色ある教育をしている。教育方法は色々あるが、幼稚園教育要領に則り、松戸市の子どもたちがいい子になって欲しいという思いは1つに、松戸市私立幼稚園連合会で連携している。幼稚園に通う子の母親達は働いていない母親も多い。子育て支援は母親を中心とした就労支援が第一に挙げられるが、働いていない母親もいるということ発信していく必要がある。本園のPTAは文部大臣賞を受賞するなど、子どものそばにいて、子どもと一緒に成長していきたいと思っている親も沢山いる。松戸市の子どものために、頑張っていきたい。

(奈賀委員)

松戸市PTA連絡協議会の推薦で委員を担当する。松戸市PTA連絡協議会は会員25,000人を抱えている。保護者に松戸市の政策などを伝え、皆で一緒によくしていけるようにPRを頑張っていきたい

(箱田委員)

児童養護施設 晴香園では、児童養護施設、放課後児童クラブ、放課後 KIDS ルーム、児童家庭支援センターの相談機関、根木内こども館、こどもショートステイ事業を実施している。子どもは未来をつくっていく人という視点で、あらゆる子どもの支援をしていきたいと思う。

(百田委員)

松戸市放課後児童クラブ法人連絡協議会の推薦で委員を担当する。松戸市内 45 小学校に 45 クラブがあり、約 3500 名の子が通っている。生活の場なので、子どもへの支援はもちろん、保護者の悩み相談にも対応させていただいている。子ども総合計画の中で、「子ども力」とあるが、「子ども<sup>ちから</sup>の力」を忘れずに支援をしていきたい。

(平井委員)

松戸市母子寡婦福祉会の推薦で委員を担当する。松戸市の取組みを知らない人に取組みを広めていくことが仕事であると感じている。高齢者のふれあいサロンと子育てサロンなどでボランティアをする中で、子どもたちの人間形成を含めて支援していきたい。

(福田委員)

松戸青年会議所の理事長を務めている。松戸市子ども総合計画の政策が全部叶ったら、子育ての魅力あふれる街となると感じる。特に、市の取組みを知らず何をしていいかわからない人に、どれだけ効果的に情報を届けられるかが、この政策を成功させる鍵になってくると感じる。その中で子どもや保護者の生の声を取り入れていながら施策が出来てくるとより実のあるものになると思う。松戸青年会議所としても一生懸命取り組んでいきたい。

(藤原委員)

松戸市牧の原保育所長を務めている。当保育所は 149 名の子どもがおり、一時保育事業も実施している。日々様々な理由で一時保育を利用している保護者がおり、支援につながっていると感じる。

(松崎委員)

松戸市民生委員児童委員協議会の推薦で委員を担当する。松戸市は、民生委員・児童委員の地区が 18 地区ある。1 地区は 30 名から 40 名で構成され、1 地区に 2 名ずつ主任児童委員がいるが、支援の対象が「妊婦から 18 歳の子ども」に特化している。日頃は、地区の民生委員児童委員と連携をとり、行政や学校などの他機関との窓口になっている。主任児童委員連合会では、市の資源の見学や勉強会を行っている。松戸市は、現在、小・中・高への学習支援、青年の就労に関する支援、外国人の子どもの支



援などに需要があると感じる。さらに学びを深め、行政と利用者のつなぎ役になりたい。

(松村委員)

聖徳大学の推薦で委員を担当する。児童学部児童学科レジャーリクレーション学研究室に所属し、専門は、読み聞かせなどである。松戸市の充実した支援を知り、それがどれだけ多くの人に伝わっているかを感じている。今後の情報発信に期待している。

(阿部副会長)

子ども・子育て支援新制度は国の方針である。松戸市において計画を実のある形に推進していくためのプロセスの1つがこの子ども・子育て会議である。この会議において、多様な立場の人の意見を吸収しようとする姿勢に敬意を表す。その施策の浸透性や活用性については、今回いろいろなご意見を頂戴した。これは今後の実施における課題であるとの坂野会長の発言があり、そのために力を発揮していきたい。日頃は大学で保育者養成課程を担当しており、大学院には男性や社会人も多数いる。大学は地域と密接な関係を構築していく必要があると、地域から学ぶ必要もあると感じている。今後、子ども総合計画の見直し案のパブリックコメントを実施していきながら、この会議が始動していくが、その会議の一員として頑張っていきたい。

(坂野会長)

聖徳大学、日本大学歯学部、千葉大学、流通経済大学の4大学が松戸市にある。皆様と一緒に子どものことを考えていきたい。先ほど、多文化共生の話があった際に、国際交流協会からその続きの話があったように、出会いの場にもなっているところがこの会議の素晴らしいところである。2年間一緒にお付き合いいただきたい。

#### ○次回の会議の開催

(事務局)

次回会議は平成30年3月頃の開催を予定している。詳細は別途ご案内する。